

ゆうこう便り

発行:北口雄幸事務所
士別市東7条9丁目
Tel0165-22-3100
fax0165-23-4356

HAC、ハウス支援

第2回定例道議会-42億6千万円を補正

不誠実な道の対応

第2回定例道議会は、経営が厳しい状態に追い込まれている北海道エアシステム(HAC)の再建策、そのための道の支援策が焦点となりましたが、支援策の内容が明らかにされたのは、各党派の一般質問が行われている6月26日になるなど、今定例会でも、道側の対応は極めて遅く、誠実さを欠



本会議で農政委員会審議事項について報告(7月6日)

くものであります。

このような状況では、十分な議会論議が行えないばかりか、突然に路線休止を言いつたされた旭川や女満別釧路などの空港所在市町との議論も不十分なままで、今回もつなぎ的な支援策を講じるだけの先送りのな対応に終始しました。

重要事項も前日説明

また、東日本大震災を踏まえて改訂された太平洋沿岸津波震災予測図の報告や道立病院事業改善プランに向けた検討委員会意見など

HACに対する支援策

- 一 離島路線維持補助 24,219千円
- 二 利用促進補助 8,000千円
- 三 2年分の償還猶予と貸付金利の低減
- 四 一時借入金債務保証 最高2億円

が、いずれも閉会前日の所管委員会で報告されるなど、重要な課題について、議会での議論を避けるかのような対応が相次ぎました。

知事をはじめとする道職員側に、道政課題、地域課題に関する論議を真っ向から受け止める姿勢が薄れているのは、極めて遺憾であります。

先送りされた重要案件

道は、原発、エネルギー課題や、防災強化策をはじめめとして山積する問題への対応を迫られています。こうした問題解決のためには、道議会や地域に対して、誠実に向き合う姿勢が求められており、これらの課題についても次の議会で議論を

深めていきます。

ハウス復旧3千万円

第2回定例会で可決された補正予算は、一般会計で42億6千万円。HAC支援事業費3千万円のほか、災害復旧費、記録的豪雪で破損した農業ハウスの復旧補助費、国からの交付金による各種基金などが予算化されました。

平成24年第2回定例会で議決された補正予算(単位:千円)

項目	一般会計	特別会計	合計
現計予算	2,740,995,869	535,698,785	3,276,694,654
2 定補正額	4,259,804	0	4,259,804
冒頭提案	4,227,585	0	4,227,585
追加提案	32,219	0	32,219
合計	2,745,255,673	535,698,785	3,280,954,458

東日本大震災被災地

帰村宣言の川内村を視察

私は、5月14日、昨年の東日本大震災で被災し、計画的避難区域に指定され、全村民が村外に避難し、今年1月31日に『帰村宣言』を行った福島県川内村の現状を視察してきました。

コラッセ夏学校が縁

川内村の訪問は、昨年夏、福島原発の事故でバラバラになっている川内村の子供たちを、放射能の心配のない土別で再会し、思いつきで遊んでもらおうと企画した「土別にコラッセ夏学校」



From Shibetsu Hokkaido
土別から贈られた「絆写真集」

が縁で、牧野勇司土別市長、岡崎治夫土別市議会副議長をはじめ、地元新聞記者の皆さんと一緒に訪問させていただきました。

川内村では、遠藤雄幸村長



岡崎治男副議長、牧野勇司市長、遠藤雄幸村長と私(左から)

猪狩貢副村長、石井芳信教育長など、村の幹部職員から歓迎を受け、遠藤村長は「昨年は大変お世話になっている、子供たちも大変喜んでいて、今年1月に帰村宣言を行い、村は復興に向け歩き始めた。しかし、課題も多く存在するが、これからも末永いおつきあいをお願いしたい」と、ご挨拶されました。



40 班集体で実施している除染風景

の後、村での除染風景や仮設住宅建設現場、国保診療所、川内小学校などを視察しました。

木造の立派な小学校を視察し、校庭に子供たちと土別市の木である「ななかまど」と「アカエゾマツ」の記念植樹を行い、継続した

交流を確認しました。

進まない帰村

川内村の人口は約3000人。しかし、現在村に戻っているのは約1000人。子どもたちについては、保育園児が41人のところ川内村に戻ったのは8人、小学生は112人中16人、中学生は57人中14人となっており、中学生までで210人中38人しか村に戻っておらず、子どもたちの帰村の難しさが明らかになっています。

除染・雇用・住宅

計画的に帰村を進めるためには、「除染の徹底と雇用の創出、さらには住宅の確



川内村の小学生と記念植樹

保」と遠藤村長はお話され、その為に、現在40班集体で除染を行っており、今年秋頃には住宅部分は終了することですが、農地はこれからで、山林に至ってはいつ完了するか分からないなど、多くの課題を残しています。

また、雇用については、現在2社約70人の雇用の創出が可能との認識が語られ、住宅についても、将来は公営住宅として活用できる仮設住宅を建設中で、早期の帰村に向け取り組みを進めています。

なくそう原発！

『原発は安全なもの』との宣伝で、私たちの認識が原発に対し、麻痺していたのではないのでしょうか。

ひとたび事故が起こると、その地域に人が住むことができなくなる恐ろしい原発。原子力発電に依存せず、再生可能エネルギーを活用し、安全・安心な社会の確立が求められています。

写真で振り返る北口道議の活動記録(4月~6月)



TPP 交渉参加に反対する道民集会(4月27日)



TPP 協定に関する中央要請行動(4月5日)



羊と雲の丘の牧柵修理とペンキ塗り(5月13日)



秋田県上の岱地熱発電所を視察(5月10日)



下川町商工会通常総会で挨拶(5月18日)



名寄市議の皆さんと意見交換(5月17日)



朝日水力発電所建設促進期成会総会(6月4日)



アジア・アフリカ支援米の田植え(5月29日)



牧野市長との天塩岳登山は悪天候で断念(5月27日)



士別市武徳町での作況調査(6月23日)

元気な郷土(ふるさと) 創造宣言!

北口ゆうこう奮闘日記

http://y-kitaguchinet/

北口道議の奮闘ぶりをブログから抜粋して紹介します。(4月～6月分)

4月23日 ミッシングリンク解消&サンルダム凍結解除&甜菜振興中央要請

野土別市長、加藤名寄市長、安斎下川町長とともに、ミッシングリンク解消、サンルダム建設凍結解除、甜菜振興などの地域課題で、中央要請行動をしてきた(中略) ミッシングリンク解消では、土別市多寄町(名寄IC間(12km)及び足寄IC



佐々木代議士へ要請

陸別町小利別間(51km)がミッシングリンクとなっており、医療、物流、観光の視点からも、早期に着工されることが望まれている。サンルダム凍結解除では、八ツ場ダムに象徴されるように、「ダム=無駄」とのイメージから、建設が凍結されている。地元流域の市町村では、治水・利水・エネルギーの観点からも、サンルダムの早期建設が求められており、5月10日には、

下川町で町民総決起大会が予定されている。また、甜菜振興では、ここ近年甜菜の作付けが激減しており、輸作体系維持のためにも甜菜は不可欠な作物であり、道内に8力所の製糖工場を有する各自自治体にとっては、その存続は大きな課題でもある。現在は、産地資金の活用によって甜菜振興も図られているが、持続的な制度設計を求め、今回の要請となったのである。

市政報告

4月30日【国政・道政・今日は午後から、



佐々木代議士、松ヶ平市議と報告会

名寄市で5ヶ所、土別市で4ヶ所において、国政道政市政報告をさせていただいた。名寄市では、私が司会をしながら、地元の奥村市議、佐藤市議を紹介。駅前再開発や市民ホール建設問題などについて報告。佐々木代議士からは、名寄市の地域課題に加え、民主党政権の懸案事項であるTPP交渉参加問題、大飯原発再稼働問題、社会保障と税の一体改革課題などについて報告された。私からは、自治体病院等広域化・連携構想で道北地方が道のモデルに指定されたことを報告。さらに泊原発再稼働問題と再生可能エネルギーの普及

拡大について報告した。

5月28日【富良野地域懇談&森林組合総代会】



富良野地区森林組合総代会で挨拶

今日は、富良野市を訪問。富良野地域の皆さんと道政について懇談し、午後には富良野地区森林組合(菅原等組合長)の総代会に出席。夜には中心市街地に建設を予定している総合子ども園について、富良野こどもの未来を守る会(斉藤真智子会長)の皆さんと意見交換をさせていただきました(中略) 総代会での来賓挨拶として私は、「昨年の3次補正で森林整備加速化・森林再生基金が3年間延長となり、北海道でも新たに122億円が配分された。一方、平成20年

度から24年度までの時限立法である『森林の間伐等の実施の促進に関する特別措置法』が今年度で切れるため、この事業についても、継続に向け努力していきたいとお話しました。

【ひとりごと】

福島原発の事故を受け、再生可能エネルギーの取り組み状況を調査するため、秋田県と山形県を視察してきた。秋田県は、3年前佐竹知事が就任。選挙公約に基づき、震災直後の昨年5月に「秋田県新エネルギー産業戦略」を策定。山形県は、吉村知事が滋賀県の嘉田知事とともに卒原発の理念で、「山形県エネルギー戦略」を震災後に議論を始め、今年3月にまとめた。一方、北海道は、「省エネ・新エネ促進条例」が制定されているにもかかわらず、今年3月の行動促進計画では、肝心のめざすべき数値目標が具体化されず、国の「エネルギー基本計画」などを踏まえ目標数値を設定することとしている。このことひとつをとっても、高橋知事のやる気とリーダーシップの差が明らかになった。

(ゆこ) (つ)